令和４年４月１４日

保護者　様

唐津市立久里小学校
校　長　髙木　淑文

新型コロナウイルス感染症対策について（お願い）

新年度が始まり、一昨日（12 日）には入学式がありました。入学してきた１年生も加わり、子どもたちの元気な声が学校に響いています。

さて、報道等でもご存じのとおり、新型コロナウイルス感染症の感染状況に関しては、県内及び市内の感染者数が高い数値で推移するようになってきており、予断を許さない状況です。

本校では、子どもたちが安全に過ごせるように、以下の感染対策に継続して取り組んでいるところです。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

【学校での基本的な感染対策】　現時点での対応であり、状況の変化に応じて変更することがあります。

- 登校時に、児童玄関で非接触型体温計での検温と手指消毒を実施する。
- 家庭で記入された「元気もりもり検温カード」を担任が朝のうちに確認する。
  → 記入できていなければ、児童への聞き取り・検温、必要に応じて保護者へ連絡
- 日常的に**マスクを着用**する。（感染予防効果が高い**不織布マスク推奨**）
  ※　体育の授業等では健康面を配慮し、状況を見て外させる場合があります。
- 教室の**常時換気**をする。
- **手洗い・手指消毒**を徹底する。（外から教室に入るとき、給食の前後、掃除やトイレの後など）
- ３密（密閉・密接・密集）を回避する。
- 給食時は、**飛沫防止デスクガードを使用**し、**黙食**する。
- 歯磨きは、飛沫防止デスクガード内で行う。フッ素洗口は、しばらく実施を中止する。
- 感染リスクが高い活動（歌、リコーダーや鍵盤ハーモニカ演奏、話合い活動など）はできる限り控える。実施する場合は、間隔を空け、回数や時間を絞る。

【家庭へのお願い】

①　登校前に、必ず**検温・健康状態の確認**を行い、「元気もりもり検温カード」に体温等を記入し、児童に持たせてください。また、マスク（**不織布マスク推奨**）を着用するようお声掛けください。
※　マスクの予備として、数枚持たせていただくと助かります。

②　児童に**発熱や倦怠感、喉の違和感などの風邪症状**があり、**普段と体調が少しでも異なる**場合には、学校へ連絡のうえ、登校は控えさせてください。（この場合、出席停止となります）
　風邪症状がある場合には、可能な限り医療機関受診をお願いします。診断が“風邪”であれば、症状回復後に登校が可能になります。

③　児童同様、**同居家族**に発熱や咳等の風邪症状が見られる場合も、児童の登校を控えさせてください。（この場合も、出席停止となります）

④　登校後に発熱・咳等で体調が悪くなった場合は、学校まで迎えに来ていただくよう連絡を差し上げます。迎えに来られるまで、保健室や相談室で休養させます。その際は、当該児童だけでなく、**兄弟姉妹すべて一緒に早退**させることになります。
　保育園や幼稚園、中学校等に通う兄弟姉妹が発熱等で早退する場合は、学校へご連絡いただき、お迎えに来てください。

⑤　児童や同居家族が保健福祉事務所や医師の指示により、**PCR 検査や抗原検査を受けることになった場合**、また、**濃厚接触者に特定された場合**は、**直ちに学校までご連絡**ください。なお、検査結果が出ましたら、**陰性・陽性にかかわらず、速やかに学校へご連絡**ください。

※　各家庭の仕事の都合もおありだと思います。しかし、本校の子どもたちの感染予防のため、どうかご理解・ご協力くださいますようお願いいたします。

裏面もご覧ください

【児童に陽性者が出た場合】　※オミクロン株が主流である間の対応

児童の陽性を覚知した時点で、当該児童が所属する学級を直ちに一旦閉鎖　となります。

朝、登校していても、**陽性者が確認された時点で当該学級児童全員を下校させることになります**。（ただし、感染者が確認された曜日、時間帯によってはその対応を行わない場合があります。）

その後、学校において接触状況確認基準（または濃厚接触チェックリスト）や陽性者からの聞き取りをもとに、濃厚接触の可能性がある児童を「要待機者」として特定し、５日間程度の自粛期間を設けることとしています。また、学校医や市教育委員会と相談し、学級内で感染拡大の可能性が高いと判断した場合に、学級閉鎖の対応を取ることになります。期間については、数日から５日間程度となります。

次のような学級閉鎖等の基準が示されていますが、原則であり、その時々の状況に応じて判断することになります。

１　学級閉鎖の基準
- 同一の学級で複数の児童の感染が判明した場合
- 感染者が１人でも、風邪等の症状を有するものが複数いる場合
- その他、学校長が必要と判断した場合

２　学年閉鎖の基準
- 複数学級を閉鎖し、学年内で感染拡大の可能性が高い場合

３　全学年閉鎖（休校）
- 複数の学年を閉鎖し、学校内で感染拡大の可能性が高い場合

※　保健所による濃厚接触者の特定や行動制限を含めた積極的疫学調査について、感染リスクが高い同一世帯内や重症化リスクの高い方が入院・入所している医療機関・高齢者施設に重点化されるため、学校においては、保健所による積極的疫学調査が行われません。

濃厚接触の可能性がある児童（「要待機者」という）は、保育所・学校等が「接触状況確認基準」や「コロナチェックリスト（学校編）」、陽性者からの聞き取りで判断し、特定することになりました。